

令和7年度 大阪市立茨田北中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査

校内秩序を正しく維持することができており、ほとんどの生徒がまじめに学校生活を送っている。  
平均正答率において、国語・数学とも全国平均を下回っている。  
平均無回答率において、全国と比較して、国語は上回っているが、数学は下回っている。問題に取り組む姿勢に課題がみられる。  
一部の生徒において、学習意欲に課題があり、基礎学力の定着が不十分である。そのため、学習の定着度に関して、二極化の傾向が見られる。  
家庭での学習については、宿題においてしっかりできている生徒が増えてきているが、未提出の生徒も若干おり、学校でのフォローと家庭へのさらなる啓発が必要である。  
〈国語〉全国と比較して、「言葉の特徴」の領域において高い値を示している。  
〈数学〉全国と比較して、「数と式」「図形」「関数」「データの活用」の領域において低い値を示している。  
〈理科〉全国と比較して、平均IRTスコアは16pt下回っている。  
生徒質問紙において、「学校に行くのは楽しいと思いますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に対する肯定的な回答の割合が、全国よりも上回っている。ただ、「将来の夢や希望を持っていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は、全国より下回っている。自尊感情が全国と比較して、若干低い傾向にある。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

平均点は大阪府と比較して、5教科とも下回っている。経年比較において、国語は横ばい、数学は低下した。  
〈国語〉「文章の構成や展開、表現について考えること」「目的や意図に応じて伝えたいことについて、根拠を明確にして書くこと」は良好である。「文脈に合わせて適切に書くこと」に課題がある。  
〈社会〉歴史上の人物についての理解は良好である。「資料に示された情報をもとに考察し、説明をすること」「高度経済成長期に起こった出来事の推移を考察すること」に課題がある。  
〈数学〉「箱ひげ図から範囲と四分位範囲を読み取ること」「問題場面における考察の対象を明確に捉えること」は良好である。『「2つの角の関係を文字で表す」』『表を読み取り、式で表す』など、文字を用いた式で角の大きさの関係や数量を表すこと』『すじ道を立てて考え証明すること』に課題がある。  
〈理科〉骨と筋肉のはたらきについての理解は良好である。「ヒトが意識して起こす反応における、刺激を受け取ってから反応するまでの時間について考えること」に課題がある。  
〈英語〉「語や文法事項等を理解して、正しい文を書くこと」「日常的な話題について、まとまりのある会話文とグラフを読み、話の概要を捉えて、内容の要点を適切に把握すること」は良好である。「文法や語彙の知識を活用し、場面に応じた英文を書くこと」「社会的な話題についてのスピーチ原稿を読み、話の概要を捉えて、内容の要点を適切に把握すること」に課題がある。

○大阪市英語力調査(GTEC)

「読むこと」では、簡単な文章の大まかな流れを理解する力についてはきている。具体的に情報のつながりを読み取る力をつけていく。  
「聞くこと」では、なじみのある表現において必要な情報を聞き取る力はある程度ついてきている。鄭文を聞いて「意味のまとまり」ごとに区切り、状況をイメージして全体の意味を捉える力をつけていく。  
「書くこと」では、基本的な英文をつなげて短い文章を書く力についてはきている。文と文の意味のつながりを意識して、ある程度長い文章を書く力をつけていく。  
「話すこと」では、基本的な語や言い回しを使って、日常のやり取りにおいて単純に応答する力についてはきている。より聞き手を意識しながら話す内容を増やし、複数の文で自分の考えを伝える力をつけていく。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査

「運動(体を動かす遊び)やスポーツをすることが好きですか」に対して最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合は55.6%であった。また、1週間の総運動時間60分未満の生徒の割合は17.3%であった。

〈成果〉

全国と比較して、男女ともに「長座体前屈」「ハンドボール投げ」において、高い値を示している。

〈課題〉

全国と比較して、男女ともに「握力」は、低い値を示している。

【今後に向けて】

学習規律を確保しつつ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。特に、各教科の知識や技能、見方、考え方を今まで以上に働かせながら学習することで、それらを使って自分の考えを整理したり、組み立てたりして、自分の考えを表現できる力をつけていく。

TT、習熟度別授業、少人数授業をより積極的に取り組み、補充学習などの個に応じたきめ細やかな指導に心がけ、基礎・基本的な学習内容の定着を徹底する。

ICT機器を有効に活用した指導方法の充実に努める。

生徒会、生徒専門委員会活動を通して、生徒自ら進んで、学校生活の改善に取り組める環境の充実に努める。

授業、学校行事など、学校教育活動全体を通して、普段からお互いを認め合い協力しあえる集団作りに努める。

「道徳」「特別活動」を充実させ、「自己肯定感」「自己有用感」を高めるとともに、集団や社会の一員として果たす役割を考えさせる。

教員の授業力の向上を目的とした研究授業の充実を図る。